ジャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(125号) 986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号 TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp

振替口座 02290-6-126186 **口座名称** 阿部 -

●代表/阿部 一

●副代表/菊池せい子

信仰:黄金律を心に刻み

- 私たちが3.11東日本大震災で経験したと同じような豪雨による大きな被害を受けられた九州北部・中国・四国・近畿の被災者の方々、家族を亡くされた方々をTVで観る度に心が痛みます。そして、神の憐れみと支え、さらに具体的に必要な支援がお一人お一人に届くように祈らされています。
- 併せてこの暑さの中でボランティアをされている皆さんの健康が守られるようにと祈っています。皆さんのご家族の方々は被害はございませんでしたか?
- 7/6に、あの日本人を震撼させた無差別サリン事件を引き起こし、既に2006年に死刑が確定していたオーム真理教の教祖と元幹部5名が7/6に、残り6名が6/26に死刑執行がなされた。
- 世界的に死刑廃止が進んでいく中で、来年の天皇退位に伴う新たな元号への移行、国民の死刑確定のこの13名への執行賛成が次第に高くなり、80%を越したという事が背景にあると言われている。一方で、この事件の真相が明らかにされていない中での執行に多くの疑問の声もあり、今後さらに問題になりそうである。
- この事件は、日本人の心に宗教は恐ろしいものとの深い刷り込みを生み、若い人を中心にキリスト教の求道者も激減した。この期間、さらに世界的なアルカイダの自爆テロ等が宗教が背景にあるとの指摘され、宗教離れが加速した。
- 歴史的に振り返れば、15世紀以降、宗教界改革後のキリスト教布教と一体となって、スペインとポルトガルが世界制覇を目指してアフリカや中南米、インドや東南アジアの国々を植民地にした。
- 今年発行された平川 新著の「戦国時代と大航海時代」(中公新書)によれば、その両国間で世界を2分する「デマルカシオン(世界領土分割)」体制の条約を結び、両国間で争いがないように植民地化を図っていたことが明らかにされています。
- ます。
 これら、全ての宗教が絡む問題には、共通して人間的な覇権争いが異宗教間、同じ宗教の教会間、同じ教会での会員間に関係しています。
- この世の栄誉や栄達、富や財産によって他よりも少しでも有利な地位を求めてしまう人間の本能に、手段を選ばないという誘惑が拍車を掛ける。
- その人間の生まれながらの傾向に、主イエスはそこには真の喜びも平和もないことを説き、しもべとなって神と人に仕える生き方る時にこそ、神からの大きな祝福があることをご自分の生き方を通して示されました。
- 私たちはこのオームの事件を通して、私たちクリスチャンにもその形は違えどその可能性があることを認め、いつも主の道から外れていないかを自らチェックし浄化を心掛ける必要があります。
- 主が、私たちに今の言動が黄金律という揺るぎない真の基準に対してどうかと問われていることを思い起こし、今月も、身を低くして主と共に歩ませて頂きたいと願います。

■ 先月の多くの恵みから

- ① 7/15に、Gong Min さんの祈りと労苦によって東松島コミュニティセンターで開催された「The Bridge Concert with Special Big Band」は、450名以上のホール満杯の出席者に大きな感動と神の愛が届けられました。このイベントに共感されたジャズピアニストのレジェンド小曽根真さんの飛び入りもあり、聴衆はその演奏に魅了されました。Gong、Park、Hogil、Kim、Limさん他音楽大学の学生さんの協力に心から感謝します。
- 2 7/1の礼拝に旅行でアララト山を展望する古い教会前で夫



人が足を骨折され、退院したばかりのDr. 木下夫妻が礼拝に出席下さり久しぶりの楽しい交わりの時を頂きました

- 3 7/9に一迫のS兄を訪ねて相談に乗り、お父さんともお交わりでき感謝しました。一緒に百合園に足を伸ばし、帰りに敬愛する斎藤明夫先生もお訪ねできました。
- ◆ 10/14、ICCを会場に、この群が10年間主と地域教会の皆さんに支えられきたことへのささやかな感謝の会を持つことが決まりました。準備が守られるようにお祈り下さい
- **⑤** 3/15に難病の神経膠腫で召天された大平あつ子さんの御主 人が時間を割いて礼拝に出席下さっています。奥様の信仰が御 主人に引き継がれるようにお祈り下さい。
- 6 7/22には、私たちの群のメンターをお願いしているSBS校長の森谷正志師が礼拝奉仕をして下さり、聖餐式も執り行って頂き感謝しました。
- 「ICCのメンターJohn & Kay Payne師ご夫妻が3年間の奉仕を終え、7/17にオーストラリアに帰国されました。市内の教会、クリスチャンのために温かいご指導を頂き感謝します。
- **8** 8月は諸集会が休みになります。9月より再開されます。会員の方々の健康が守られますように。
- 9 7月も多くの方々の献金、献品、手紙、メイル等でこの小さな群の活動を励まし支えて頂き心から感謝いたします。

■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

① 癌と闘っている今野かつ子さん/二平幸子さん/千葉真理子姉/岸浪市夫先生の回復のために。② 地域より求道者が起こされるように。③西日本の豪雨による被害者のために ④大平英秀さんのために⑥ 9月までの石巻日々新聞のエッセイが用いられるように

群の定期集会

・礼拝(毎週日曜日) 10:00-11:30 ・祈り会(毎週水曜日) 10:00-11:30

・聖書を読む会(第1火曜日)・ほっと・Time (第3火曜日)10:30-12:0010:30-12:00

・コーラス「花」(第2,4木曜日) 13:30-15:00

・楽しい手芸(第2,4月曜日) 10:00-12:00

・学習支援(地域の子どもの要望に応えて)

信仰を詠う

8月 老いとともに

手をつなぐ片寄せ合いて 老人二人青信号に渡りきたり おさがりの孫のズックの紐を締め 歩幅五センチ広げて歩く

心音を聴く表情を変えぬまま 医師は日頃の痛みを質す



今野かつ子

先月に引き続き、投稿 を頂きました。老いを歩 む夫婦は長年連れ添って 培ってきた互いへの配慮 を歩道を渡るときの何気気 ない行動の中に温かいにま す。 五センチ広げの表 現の中に孫への感謝の思 いが詠われています。



アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」=主の山に備え在りの意

信仰の歩みの中で

この老いの身を用いられる神に感謝し

石巻祈りの家代表 阿部一

昨年の10月と11月の毎週水曜日に、地元紙の「石巻かほく」の「つつじ野」というコラムに9回エッセイもどきを書かせていたいた。引き続いて、もう一紙の「石巻日々新聞」に4月から月1回の依頼があり、どうしてかなと思ったら、とても珍しいことだが読者からの推薦があったということで駄文を書かせてもらっている。こちらの7月号に「美人女医に限る」というちょっとふざけた題で書いたが、中味はなぜ私が20年近く前に東北大医学部に検体をするに至ったかという真面目な内容である。

さて、私はこの6月で78歳と年だけは立派な 後期高齢者になった。こんなに長生きをするは ずではなかったというのが今の偽らない気持ち です。

ボランティアに来られた皆さんは、私の本当の健康状態を知らないから、年齢を聞いて「御元気ですね」と言われ、私も実情を説明するのは大変だから、昨年は I'm 77 years YOUNG. と冗談に言っていた。

実は生まれるときにへその緒が首に二重に巻いていて、産声を上げるにはかなり時間が経ってからのことだった聞いた。薬もない戦中に肋膜と腹膜を併発し、同じ病に罹った姉は亡くなり、「今夜が峠ですね」と宣告された私だけが生き延びた。それだから虚弱体質の上、戦争中での食糧難で十分な食べ物もなく栄養失調状態で小学校時代は50mも走ればぶっ倒れる状態だった。このころの中耳炎で耳が聞こえ難い。特に小さいときから肩が弱く、ボールを使う野球やバレー、バスケットなどはからっきしダメである。

どうにか生き延びて大人になったが、それからも病気のオンパレード。虫垂炎・顔面神経麻痺・椎間板ヘルニア・帯状疱疹・・今も頭痛と、耳鳴りの後遺症に悩まされているのが、33歳の時の苦痛事故。免許取り立ての未成年の脇見運転で慌ててアクセルを踏んだままで自転車の後ろから追突され、頭がフロトガラスにまともに叩きつけられ、前上歯が下歯で真ん中から割け神経が出っぱなし。さらに急ブレーキを掛けたから30m近くも空中を飛んで

頭から田圃に突き刺さった。当然ながら意識不明で、救急車で病院の運ばれ、意識が戻ったときは肩甲骨から肋骨も折れ、ベットにくくり付けの状態で、頭部は膨れあがり氷で四六中冷やさなければならず、差し歯を入れるまでの3ヶ月は神経出っぱなしの歯の痛みに呻吟した。

結局、7ヶ月の入院で自宅療養で新学期から復職したが後遺症が酷く、同僚が学校までの送り迎えをしてくれ、授業以外の校務はほとんど免除してもらって休んでいた。同僚の支援がなかったならば、仕事を続けられなかったと感謝している。

その後、大学病院の全科で精密検査を受け、最後に神経外科で検査が続けられたが、現在の医学では治療法がないので「生まれたときからその頭痛と耳鳴りを持っていたと受けとめて生活してはどうか」勧められた。次第にその痛みを心から外すことを覚えて仕事をしてきたが、急な天候の変化には今も頭のしびれに悩まされる。

退職してから、検査でPSA価が高く前立腺癌の疑いがあると、

3回目の入院検査による生体検査で漸く悪性癌が見つかり手術を勧められたが、「祈りの家」の奉仕があるので入院するわけにも行かず、医師の頼みんで日赤で30回余りの放射線治療をしてもらった。この選択が功を奏し、現在はこの病からは解放された。

振り返ると、よくもこんな体で2011年の東日本大震 災で6年近くもヘドロ上げから家屋清掃、そして毎日 睡眠4~5時間で物資支援などが出来たものだと我な がら驚いている。

災害支援が一段落した頃に、腰の痛みが酷くなり検

査の結果、脊柱管狭窄症と診断された。歩くのもままならず、様々な治療をしてもらったがなかなか良くならずこのまま歩けなくなるかなと思いながらも、朝部屋を6,000~8,000歩あるき、コンピュターを立ったままで操作出来るようにしている内にわずかな痛みがあるものも牧山を散策できるまでになった。 老いとともに眼や耳(現在は補聴器使用)、血圧や糖尿など体の動きだけでなく器官の障害も次第に増えてくる。私たちの群では良く「健全に老いてきた」と笑って話しているが、これは生けとし生ける者の自然の経過である。時には「神さま、もう良いいんでないでしょうか?」と呟くと、「まだお前には貸しがある」と言われていると思い、気を取り直して神が定めて下さった時まで誠実な歩みをさせて下さいと祈る。これからのことは神の領域であり、まさに「だから、明日のための心配は無用です。明日ことは明日が心配します。労

苦はその日に、十分あります。」(マタイ6/34)と主が諭して下さっ

ている通りです。今日も、沢山恵みを頂いたな~! 感謝!

